

県内各業界へのヒアリング結果（令和2年4月）

【製造業】

- 国内では自動車関係が動いていないので、売り上げが落ち込んでいる。今後の見通しが立たない。（非鉄金属製造）
- 生産稼働率は約70%となっており、体制を縮小している。派遣社員で調整している。（はん用機械器具製造）
- 多少の減産はあるが、通常の勤務体制をとっている。（輸送用機械）

【地場産業】

- イベントの延期や中止が相次いでおり、先行きが不透明である。（窯業）
- 業況は悪いながらも受注生産を維持。中国への輸出は少しずつ回復しているものの、アメリカへの輸出は動きが鈍い状況。（陶磁器）
- 納品先である高山等の土産物屋が休業しており売上は大幅に減少するも、ネット販売は例年程度で推移。（紙製造）

【小売業】

- 客単価が大きく伸びており、売り上げは増加している。（スーパー）
- イベント等はすべて中止し、チラシやCMも減らして集客自体を控えている。（大型商業施設）
- 休業要請により飲食業等が休業となり、来街者は9割以上減少。人を呼ぶ企画ができず、感染収束後に向けて清掃や店主の健康管理に務めている。（柳瀬商店街）

【観光】

- 4～5月の入込は過去最低になりそう。GWを除き休館。6月も休館予定
- 先は見えず厳しい。半年以上この状況ならば、宿運営は厳しい。
- 6月は通常閑散期であるので、今無理して営業して感染するよりも、7月の本格稼働に向けた体制整備に充てる予定。（以上、宿泊施設）

【農業】

- 飛騨牛は外食向け需要が減少し、例年に比べ販売価格が2～3割減少している。餌代などの必要な経費を差し引けば、利益が出ない。（食肉流通）
- 花きは、外出の自粛、イベントの中止などにより、需要が大幅に縮小している。このまま今後の予測も立てられない状況が続けば、経営規模の見直しなど検討せざるを得ない。（花き生産）
- 鮎の本格的なシーズンを迎える中、観光需要の減少が懸念される。（漁業者）

【林業・木材産業】

- 木材の主な供給先である住宅需要が減少しているため、減産を始めたり、今後予定している製材・加工工場が多い。(製材加工)
- 製材・加工工場が原木の入荷制限を始めており、原木の在庫が増加している。(林業事業体)
- 原木の買取価格が下落し、零細な林業事業体は利益を上げられない。(林業事業体)

【住宅・建築】

- 景気減退による消費マインドの低下に加え、住宅展示場の休業等により新規の商談が著しく減少している。(工務店)
- 中小工務店においては、特に秋以降の仕事の確保が厳しい。(工務店)

【公共工事】

- 新型コロナウイルス感染防止対策については苦勞しているが、工事には影響は生じていない。今後、経済不況が起り長引くこととなった場合、必要な社会資本の整備が遅れないか心配している。(建設業者)